

地域おこし協力隊通信

第25回



地域おこし募集用写真①



地域おこし募集用写真②



右・小林
左・森山隊員

リポーター…
小林正英 隊員

皆さんこんにちは！
23回目の協力隊通信です。
今回は、地域おこし協力隊の募集について、お話しします。

私、小林の先輩隊員である森山隊員が、8月19日での3年の任期を終え潮来市地域おこし協力隊を退任予定。3年間本当にお疲れ様でした。退任後に何をやるのかは、5月15日現在まだ決まっていざいようですが、潮来市を離れても、元気に過ごしていただければと思います。

さて、退任する森山隊員が主な活動としていたのが潮来市のPR。毎月区の見学に入っている協力隊新聞の作成や、Instagram、FacebookなどSNSを使った発信などを行っていました。今回募集するのは、森山隊員の後任として潮来市のPR活動を担ってくれる人。広報・広告・デザインに興味がある人を募集します。「できる人」ではなく「興味のある人」です。

地域おこし協力隊という制度は、もちろん「地域おこし」のための制度ですが、「自己成長」もできるという期間で、自分のやりたいことにチャレンジし、実績や実力を作る。そんな側面もある制度です。そこで今回は、すでにPR関係の仕事をしていて、実力や実績がある人ではなく、そういう仕事に興味はあるけど経験がなく、なかなか一歩踏み出すことができない人をターゲットにしました。

残念ながら、地域おこし協力隊の制度上、現在潮来市にお住まいの方は、応募できません。この記事を読んでいる方は潮来市に住んでいる方が大半かと思いますが、知り合いの中に興味がある人がいれば、声をかけていただければ幸いです。

まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

潮来市の誇れる自然

水郷の魚採り名人 アオサギ

水郷潮来の情緒や景観は、梅雨こそ見頃です。今年は2年ぶりに、あやめまつりが開催されています。嫁入り舟やあやめ踊り披露などは中止になりましたが、咲き誇るアヤメ、手漕ぎの舟、運河のまわりの町並みが楽しめます。

この季節、水郷の広い田んぼで、サギの仲間をよく見かけます。市内では、周年見かけるコサギ、ダイサギ、ゴイサギ、アオサギに加えて、繁殖のために渡ってくるチュウウサギやアマサギも見られます。これら6種類のサギ類は竹林などに集団営巣し、子育てします。この集団営巣地は「サギ山」と呼ばれます。サギ山は糞の被害が発生したりもしますが、そこから飛来するサギ類は水田の食物連鎖の頂点に立つ捕食者で、水田生態系の大切な構成要素です。そこかしこに湿地がありエサが豊富な水郷は、サギ類の楽園です。

田んぼで見られるサギ類のなかで、ひととき目を引くのが、体が大きく、頭部に黒い帯があり、背側がやや青みがかった灰色のアオサギ（青鷺、英名だとgrey heron）です。日本最大のサギで、翼を広げた大きさは1.6mほど。湖岸で小さなシラウオを捕まえたり、田んぼで大きなギンブナをひと飲みしたり…（画像①②③）、巧みな狩りの技を披露してくれます。近年、アオサギは増加傾向にあることが知られています。みなさんが出会ったときにも、じっと観察していただければ、そのスゴ技を目にする機会があるかもしれません。

茨城大学地球・地域環境共創機構
水圏環境フィールドステーション

加納 光樹



③飲みこんだあと



②ギンブナを飲みこんでいるところ



①アオサギ：ギンブナを捕まえたところ